

第 2 部 国際会議の開催に関する具体的な問題点の抽出の検討

(第 2 部 中表紙裏 余白)

2.1 ICOM-ASPAC 日本会議を開催する場合の開催場所・時期・運営方法

2.1.1. 開催場所

アジア・太平洋地域の国際会議について開催場所は、主要国立博物館が集中し、国内外からの交通の便が良く、インフラの整った東京上野地区を中心とすることが望ましい。

2.1.2. 開催時期

開催時期として、2009年10月1～2日の間に全国博物館大会(旭川市)、10月下旬～11月上旬にかけて、アジア国立博物館協会(ANMA)第2回定期大会やアジア博物館研究会議(仮称)、韓国における国際シンポジウム開催が予定されていることから、2009年12月7～9日に行うことがもっとも望ましい。

2.1.3. 運営方法

会議プログラムは、これまでに日本国で開催された国際会議の経験を踏まえると、以下のように企画するのが望ましい。

12月7日 全体会議・基調講演

12月8日～9日 3テーマについて討議・宣言

何よりも、アジア太平洋地域の歴史・美術系博物館、自然史系博物館の多くの関係者が一同に参加できるような配慮の下に運営が行われることが不可欠である。

そのためには、①3テーマの討議時間は、2日間の余裕ある日程とすること、②歴史・美術系中心のテーマ、自然史系中心のテーマ、博物館全体共通のテーマの3テーマを設定すること、③例えば、ポスターセッション(各国の博物館事情等)会場を設営して、余裕を持った休憩時間の中で、当該会場に参加各国同士の交流が図れるような工夫をすること、④会議最終日に、都内の博物館・美術館を対象としたエクスカージョンを設定すること、⑤会議開催期間中における、主としてロジスティック関係のボランティア募集などが考えられる。

また、参加者には基本的に自己負担をお願いするが、参加者への援助や滞在費について関係の団体に交渉などを行い、低廉な宿泊場所の斡旋など、参加者の負担を減らす運営を工夫して、参加者が負担を感じないような運営方法を検討する必要がある。さらに、一層効率的な運営方法に検討が求められている。

2.2 アジア太平洋地域を中心とした国際会議開催する際の留意点

各国の社会構造・習慣・宗教などの違いを踏まえた上で、多くの参加者が参加できる体制をつくる必要がある。

また、国によっては参加の経済的負担が大きく、参加自体が難しい場合も予想できるため、メンバーの負担についても考慮し、国の状況・体制を超えて多く人数が出席できるように考慮することで、多様な意見が会議に出されるように留意する。そのためには、以下のような措置をとることが望まれる。

- ① ICOM-ASPAC 日本会議のアナウンス:ICOM 本部の配信「ICOM-L」やアジア太平洋地域の在日大使館を通して、まず、早期にプレアナウンスを行い、その後数回にわたってアナウンスを行うこと。
- ② 参加国によっては出入国に制限があるので、ICOM 日本委員会事務局から関係大使館等の各機関に対して、本年 12 月に ICOM-ASPAC 日本会議を開催することのアナウンスを早めに行うとともに、出入国に関する情報を入手するなど、参加者の出入国がスムーズに行われるような工夫をする必要がある。
- ③ レセプションなどの飲食には、各国の習慣・宗教事情に格段の配慮を行うこと。
- ④ 会議開催期間中における、主としてロジスティック関係のボランティア募集およびその他の事項へ配慮すること。

2.3 資金調達・確保の方法について

開催会場は、主として、ICOM 日本委員会委員長館である国立科学博物館として、必要に応じて、東京国立博物館等、ICOM に加盟している主要博物館の協力を得て、必要経費を抑制することが望まれる。

しかしながら、国際会議であることと、日本のリーダーシップでもって、他のアジア太平洋地域の各国博物館との連携を深めていくことが不可欠である(ICOM-ASPAC 日本会議開催の趣旨)ことから、主として、博物館行政を所管する文部科学省の絶大な財政支援が不可欠である。

また、常日頃から博物館活動に物的に支援いただいている企業に資金提供の協力を依頼する。

さらに当日の運営は、諸外国の専門家の個人的アテンド等を想定し、ICOM 関係者や日本博物館協会加盟博物館のスタッフだけでなく、文部科学省海外博物館研修経験者、関係学会、大学生・大学院生を対象としてボランティアを募集することが考えられる。

2.4 会場設営

開催会場は、基本的には、参加者の便宜を考慮すると、国立科学博物館のような1会場において、会場設営するのが望ましい。国立科学博物館の場合は、上野本館地区内に最大 160 人収容の日本館講堂、40 人収容の会議室を3つ、150 人収容のレセプション会場(レストラン、日本館中央ホール、地球館地下 2 階展示場「海に還った四肢動物」)を3つ有しており、開催会場として適正規模であるといえる。

なお、必要に応じて、同じ上野地区所在の東京国立博物館等に、一部について、会場設営について協力を仰ぐことが考えられる。